



COREDO日本橋の自主生産品販売会を終えたご利用者様、スタッフ、関係者との1ショット

地域ケアセンター

センター長 八巻 利子

(やまき としこ)

グループホームを核とした複合施設「イタール上荻」が完成しました。



イタール上荻の全景、美しく植樹された南壁面がシンボル

「旧ワルツ」の老朽化に伴い、地主様より50年という長い借地契約を結ぶことが出来たため、平成27年3月末より始まりました総合福祉施設「イタール上荻」内グループホーム『ワルツ』が完成いたしました。旧ワルツのご利用者様をはじめ13名のご利用者様が入居する予定になります。グループホームの内部はご利用者様の高齢化にも対応

体が丸となって取り組んだ事業です。

平成28年1月下旬からご利用者様の引越しが始まり、2月1日からの運営開始になります。今後も安全・安心を念頭に置きながら新しいグループホーム作りを目指していきたいと思っております。これからもグループホーム事業のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

法人本部

「ALSOKありがとう運動」様より、50万円のご寄附をいただきました。

法人の施設警備等を担っていただいているALSOKグループ様。「ありがとうの心を基本理念とし、広く社会に貢献したい」という、創業者の(故)村井順氏の提唱によりスタートしたのが、「ALSOKありがとう運動」です。これは、ALSOKグループ各社の役員・社員等の会費や、会社関係者の寄託金等を、社会貢献に役立てようとする運動です。



総合警備保障株式会社・城北支社社長小池正器様より、寄附目録を受け取る谷山哲浩理事長(イタール成城にて)

今回の、15拠点のグループホーム運営を通じ、障害者の暮らしを支えるいたるセンターの支援活動にご賛同いただき、50万円のご寄附をいただきました。「ALSOKありがとう運動」は、この運動に賛同した社員の皆様一人ひとりの毎月の給与から会費が集められるものです。「人間はこの社会で互いに生かされていくものであり、自分を取り巻くすべてものに対し、謙虚にありたい」という感謝のこころを受け取り、大切に活かしていきたいです。



「いたる賛助会」より皆様の温かいご支援を願ひいたします

いたる賛助会は、いたるセンターの行う福祉活動を支援するとともに、地域に密着した活動を中心に据え、地域に生活する障害者(児)の福祉の向上を目的として、平成11年に発足しました。会員の方々は、いたるセンターの施設・サービスのご利用者様のご父兄や地域の皆様ご賛同いただいた企業・団体を中心としています。

集められた会費は、主にグループホームの設立や運営をはじめとする、いたる事業支援費として地域福祉の向上に充てられます。

いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成28年1月1日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

いたる通信 59 新年号

目次 contents

- 01 平成28年 年頭所感
- 02 COREDO日本橋 自主生産品 販売特集①
- 03 COREDO日本橋 自主生産品 販売特集②
- 04 いたる地域ケアセンター 法人本部 他

平成28年・年頭所感

皆さまにおめでとうございませう。旧年中は多大なるご支援をいただき、誠に有難うございました。思い起こせば、4年前のことです。目黒本町福祉工房の落成式に参加し、杉並区を中心に福祉サービスの充実を図っていた当法人にとって、初めての目黒区への進出を果たした記念すべき日でした。杉並に戻り、理事長室で執務をこなしていた時、大きな揺れが襲ってきました。平成23年3月11日14時46分、あの東北地方太平洋沖地震が発生した瞬間です。東日本の広大な範囲に被害が及び、今もなお、その爪痕が残る大惨事でした。

が軒並み倒壊している惨状を目の当たりにしました。こうした二つの震災を契機として、阿佐谷福祉工房の建て替えを決意したので。当地は木造家屋と狭隘道路が多く、災害への対応が難しいことから、10拠点を数えるグループホームについても、早急に対策を練る必要がありました。

高年齢化・重度化するご利用者様の安全・安心な生活拠点の整備は、我が国の社会的課題でもあり、これに重点を置いたグループホーム整備やサービスの提供は必須です。マンションの居室をバリアフリー化して提供したり、旧法で言うところの共同生活介護(ケアホーム)を整備することで、こうしたニーズに添えてきました。この春、その老朽化した

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩 (たにやま てつひろ)

COREDDO日本橋 自主生産品販売会特集

平 成27年11月13日から19日の7日間、COREDDO日本橋で行われた自主生産品販売会。

「僕の声、4階まで聞こえるそうです。いい声ですね、とお客様にほめられました」「私はチラシを配ってきましたね」など、いたるセンターの職員とご利用者様が力を合わせ、一週間で78万円を売り上げました。

5つの事業所が連携し、サポートしあいながらの販売には、売上の多寡を超えた利益が得られたように感じられました。日を重なるたびに各事業所間のスタッフのコミュニケーションを深めることができ、「つなぐ・つながる」ことの



ちょっと早いしめ縄も大好評で完売

できた一週間だったと思います。

一方で、無償で販売スペースやバックルームの提供や館内放送でのイベント告知をしていたいただきました三井不動産株式会社様並びに

三井不動産商業マネージメント株式会社様には、本当にお世話になりました。二社の皆様にとつての利益はどうだったのだろうか、と顧みたとき、実は赤面の至りであり、自身自身の今回の一番の反省点であったと認識しております。「パートナーの利益をまず考える」ことを、今後、十分に注意したいと思えます。今回のコレド日本橋における自主生産品の販売会で、最も特徴的だったことは、関係



建物の雰囲気壊さないようディスプレイに注意を払いました。

するすべての人が少しでも売上に貢献したいと協力してくれたことです。ご利用者様も、そのご家族様も、三井不動産関係の方々も、隣の店舗のスタッフの方々も、そして職員も、職員の家族もです。それは大変素晴らしい、感動的でした。このような最高の舞台を演出してくださいました当法人の松本邦夫評議員に、この場を借りて、あらためて御礼を申し上げます。

COREDDO日本橋の責任者
三井不動産株式会社ビルディング本部
日本橋1丁目オフィス所長
佐伯正人（さえきまさひと）様より激励のお言葉を頂戴いたしました！

COREDDO日本橋がある日本橋一丁目ビルの施設運営の責任者をしてる佐伯です。この度のいたるセンターの商品即売会が大成功となりましたことを喜び申し上げます。私たちが商品の品質の高さに驚きました。パン、チョコレート、クッキー、ラスクはとても美味しいと思いました。Tシャツやバッグのデザインも魅力的で、マフラーの色使いも綺麗だと感じました。7日間の間にリピーターのお客様もできましたよね。多くの商品が売れたということは、それだけ多くのお客様にご満足いただけたということだと思います。施設運営をする立



お客様にお求めやすいような展示を心掛けました。

ご紹介しします、いたるセンターの自主生産品

阿 佐谷福祉工房、あけぼの作業所、目黒本町福祉工房、イタル成城、そしてパ工房ブック。この5つの通所施設で、ご利用者様とともに作っているのが、いたるセンターの自主生産品です。「働くことで社会参加し、自立に向けた力を育む」という設立以来のテーマを掲げ、個性的で質の高い自主生産品の販売を通じ、その売上金をご利用者様の工賃として還元しています。



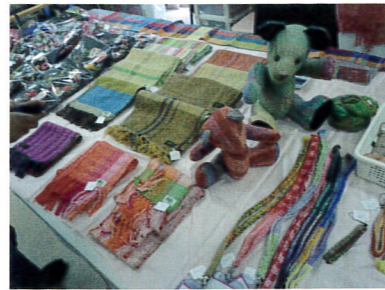
通好みのタイカレー（グリーンカレー）もリピーターがつかまりました。



日本橋で買い物される本物志向のお客様もご満足いただける商品の数々

天然酵母を使った「奇跡の食パン」をはじめ、卵不使用の「クッキー&ラスク」、本格的な味を追求した「グリーンカレー」、世界的なシヨコラティエが監修した「アマンド・シヨコラ」、アールプリユットを髣髴とさせる「スク

リン&デジタルプリント製品」など、各施設の主力製品を中心に販売を行いました。障害を持った方々の感性や可能性を、少しでも多く引き出せるよう努め、これまでの福祉商品の価値観を変え、一般に流通する商品に負けない価値あるモノ作りを目指します。こうした活動を通じ、さまざまな人々とともに学び合いつながり、新しいかたちの福祉を考え、豊かな地域社会を築いていくことが、私たちがいたるセンターの使命です。



季節感あるマフラー等のさをり織り
いたるセンター・ホームページ
URL: <http://itarucenter.com/>

次回販売会を計画中心！ COREDDO日本橋において、

さまざまなつながりを得て、大成功に終わった、COREDDO日本橋における自主生産品販売会。今後も、三井不動産株式会社様のご支援・ご協力をいただきながら、この自主生産品販売会を継続していきたいら、と考えております。今回の販売会の経験を活かしつつ、さらなる拡販を目指すとともに、少しでも障害者に対する偏見や差別をなくす機会を提供していきたいと存じます。



当日のギフトの詰め合わせも好評でした。

おいしく、
かわい、
社会貢献。
いたるのギフト
承ります！

いたるセンターでは、各事業部自慢の自主生産品のギフトボックスのご用命を承っております。組み合わせは、あなた次第。贈る方のまごころを伝えるいたるのギフトをご利用ください。お問い合わせ・ご注文は 担当 北村まで
電話03(33392)7346